

荒潮繞る

(大正五年北寮寮歌)

桜井芳次郎君 作歌

橘本吉郎君 作曲

一

荒潮繞る北の郷
絢爛の時に高く
看よ極光に照らされて
夢にまどろむ春の精

二

嗚呼感激の経宮を
矜る血潮に求め来て
十一の年の旦暮は
澄明の府靈清し

三

夏の日悠然に石狩の
浩蕩の水焔めきて
流光高く際涯なき
自然の業を畏れずや

四

夕暮呼ばふ閑古鳥
冥想ここに始めよと
遠鳴くなべも紅葉しつ
稜暈として唐錦

五

北風胡沙に雪を捲き
荒れ狂ひたる戦場の跡
暮れ行く蜚霧に包まれて
白銀の都今静か

六

清けき永久の靈泉の
至福の水を掬ふ可く
黄金の甕守りつつ
調新しく唱はなん

七

智慧の光に導かれ
熱の磅礴に生立ちて
潔き生活の道すがら
曲勇ましく唱はなむ